



地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	東京建物株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	東京都中央区八重洲一丁目4番16号
工場等の名称	名古屋プライムセントラル
工場等の所在地	名古屋市西区名駅二丁目27-8
業 種	不動産業、物品賃貸業
業務部門における 建築物の主たる用途	事務所
建築物の所有形態	賃貸ビル等（賃貸している建築物）
事業の概要	事務所・店舗・駐車場の用途にて賃貸
計 画 期 間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公 表 期 間	令和6年7月8日 ～ 令和6年10月6日		
公 表 方 法	☒	掲示 閲覧	（場 所） 名古屋プライムセントラルタワー防災センター
	☐	ホームページ	（HPアドレス）
	☐	冊 子	（冊子名・ 入手方法）
	☐	その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-571-5171		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社は地球温暖化対策をはじめとする地球環境保全の重要性を認識し、事業活動のあらゆる分野を通じて、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

1. 省資源・省エネルギー活動の推進
事業所で使用する電気、燃料等のエネルギー使用量を令和6年度までに令和3年度比1%のエネルギー抑制を推進します。
2. 廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進
廃棄物の発生量抑制を推進します。
3. テナント様への環境教育と社外への環境コミュニケーションの推進
テナント様に対しては環境教育を勧め、社外に対しては環境情報の公開を勧めます。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

防災センター所長（推進員）→ 管理員

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		4,889	t-CO ₂
①温室効果ガス換算量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		4,889	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）				%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
原単位あたりの排出量	11.95	t-CO ₂	11.83	t-CO ₂	12.62	t-CO ₂	12.37	t-CO ₂
削減率（対基準年度）			1.0	%	▲ 5.6	%	▲ 3.5	%
原単位あたりのみなし排出量						t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

令和5年度もテナント専用部内照明器具や共用部を順次、LEDに更新し、CO2排出量の削減に寄与した一方、新型コロナウイルス感染者減少により、出勤率が上昇し、結果としてはCO2排出量の増加となった。令和4年度と比べるとテナント面積が減少しているため若干の減少となった。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー行動の実践（冷暖房）	・自動制御装置や中央コントローラーは、定期的に保守点検を行い、誤動作等を防止する。		毎月の自動制御保守にて、温度センサーの誤差を確認した。
省エネルギー行動の実践（照明）	・タイマーや自動点滅器の動作状況を定期的にチェックし、不要点灯や誤点灯を防止する。		毎週点検することにより、動作状況を定期的にチェックし、不要点灯や誤点灯を防止した。また、各蛍光灯照明器具について、LED照明器具への更新を随時実施している。
省エネルギー行動の実践（OA機器）	・パソコン等の電源を、離席時・退社時に可能な限り電源オフする。		各テナントへ協力を依頼し、実施してもらっている。
廃棄物の排出抑制・リサイクルの促進	・各テナントから排出される古紙・雑がみ等の資源化出来る紙を可能な限り分別・回収しリサイクルを促進する。		雑古紙等、資源化できる紙を厳格に分別するよう各テナントへ指導し、リサイクル率を向上させた。
省エネルギー行動の実践（冷暖房）	・暖房時の加湿制御の調整にて、給水時間を調整することにより、空調機給気温度低下を抑制する。		平成25年12月より制御プログラムを変更し実施した。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--